

南海トラフ地震に備える！！ ～南海トラフ臨時情報について～



令和4年度
宇多津町危機管理課

南海トラフ地震とは？

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域とする地震です。繰り返し発生してきている大規模地震で、過去に大きな被害をもたらしてきたと記録されています。



※出典：気象庁「南海トラフ地震-その時の備え-」より

過去の主な南海トラフ地震



発生年月	地震名	マグニチュード
宝永4年(1707年)10月	宝永地震	M8.6
嘉永7年(1854年)12月	安政東海地震	M8.4
	安政南海地震	M8.4
昭和19年(1944年)12月	昭和東南海地震	M7.9
昭和21年(1946年)12月	昭和南海地震	M8.0

100~150年間隔で発生

南海トラフ地震の現時点での発生確率

※出典:文部科学省地震調査研究推進本部
海溝型地震の長期評価

南海トラフ地震の発生確率は30年以内に**70%~80%** (算定基準日 令和4年1月1日)より

過去の大規模な地震発生直前における確率

地震名	地震規模 (マグニ チュード)	地震発生確率		
		10年以内	30年以内	50年以内
2016年 熊本地震	7.3	—	ほぼ0%~ 0.9%	ほぼ0%~1%
2011年 東北地方太平洋沖地震	9.0	4%~6%	10%~20%	20%~30%
1995年 兵庫県南部地震	7.3	—	0.02%~8%	—

※出典:文部科学省地震調査研究推進本部 海溝型地震の長期評価(算定基準日 令和4年1月1日)より

南海トラフ地震の想定震源域において、大規模地震が発生したり、通常とは異なるプレートの動きが観測され、続けて今後巨大地震が起こる可能性が高いと判断された場合、気象庁は「南海トラフ地震臨時情報」を出します。その際、津波からの避難が難しい住民は自治体より「事前避難」を求められます。

南海トラフ地震臨時情報とは何か？

南海トラフ沿いで、**異常な現象(※)**が観測され、

- ・異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合
- ・調査を継続している場合
- ・一定規模以上の地震が発生した場合など

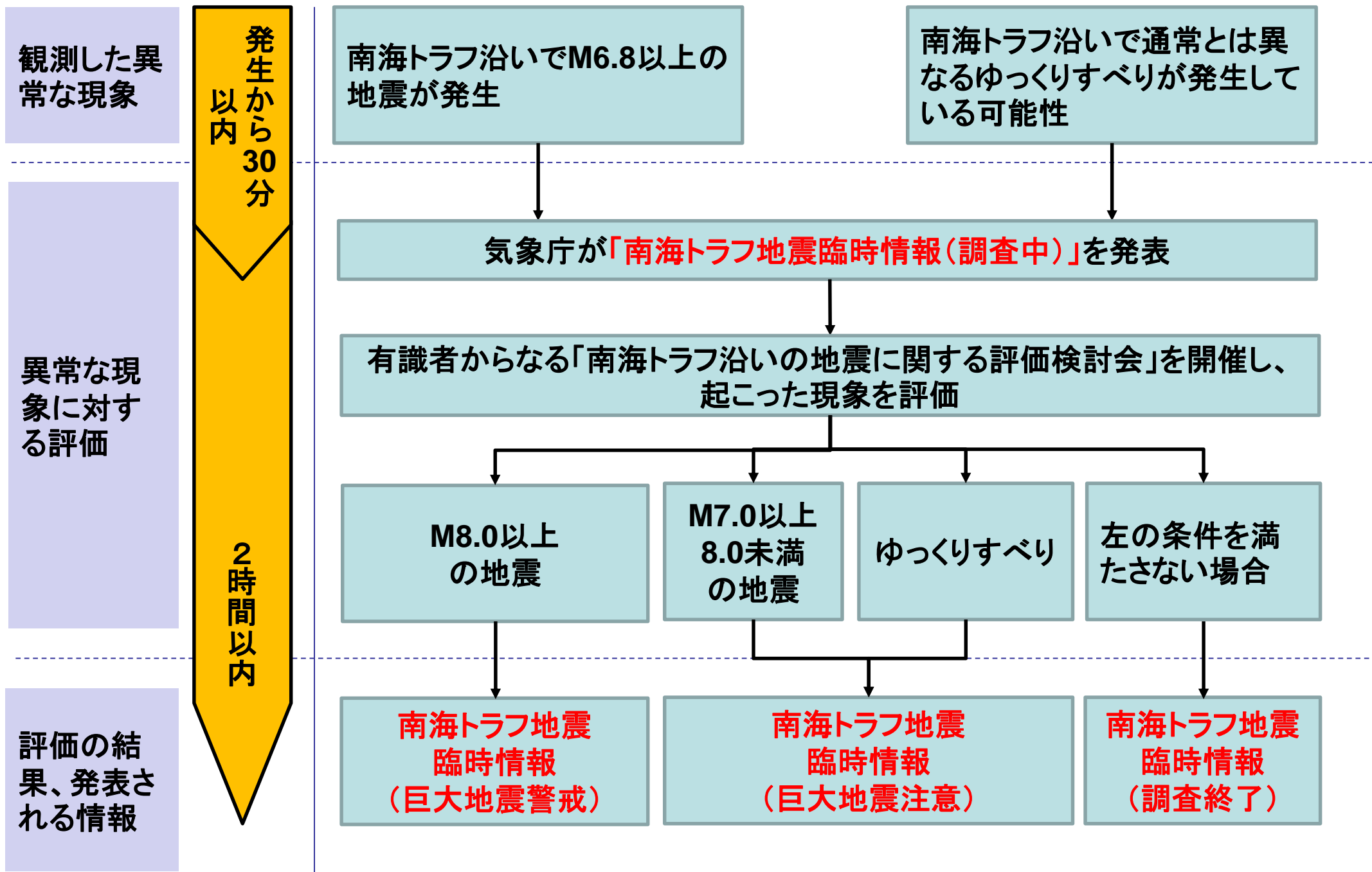
南海トラフ地震の発生可能性が、**通常と比べて相対的に高まったと評価された場合に**、気象庁より「南海トラフ地震臨時情報」が**キーワード(調査中、巨大地震警戒、巨大地震注意、調査終了)**とあわせて発表されます。

※ 南海トラフ沿いでマグニチュード6.8以上の地震が発生した場合、またはプレート境界面で通常とは異なるゆっくりすべりを観測した場合などが想定されています。

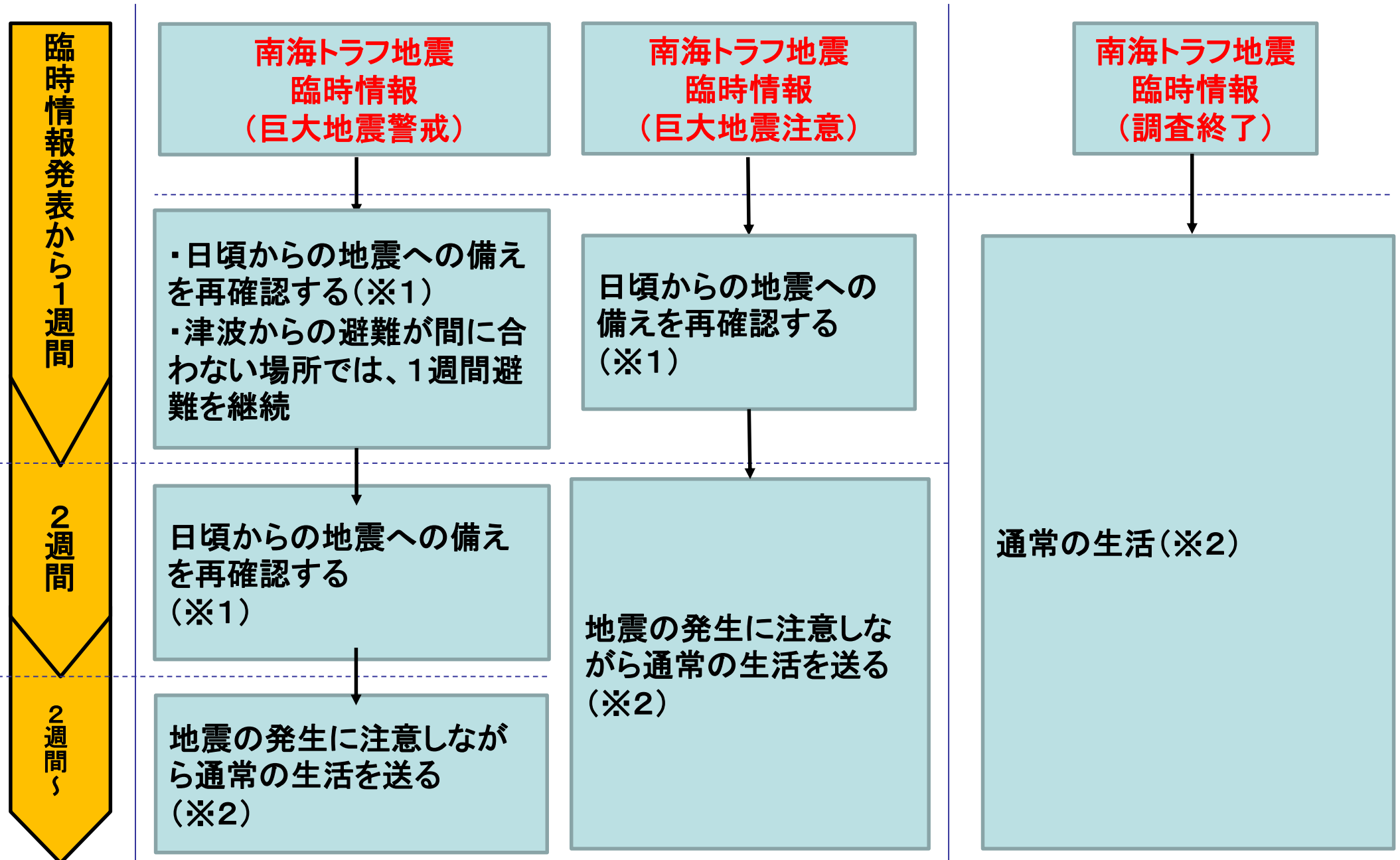
南海トラフ地震臨時情報の種類について

種類	発表の条件
調査中	<ul style="list-style-type: none">・南海トラフ沿いでマグニチュード6.8以上の地震が発生し、南海トラフ地震との関連性について調査を開始する場合・南海トラフ沿いで通常とは異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる場合
巨大地震警戒	南海トラフ沿いでマグニチュード8.0以上の地震が発生した場合（半割れケース）
巨大地震注意	<ul style="list-style-type: none">・南海トラフ沿いでマグニチュード7.0以上、8.0未満の地震が発生した場合（一部割れケース）・南海トラフ沿いで通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合（ゆっくりすべりケース）
調査終了	「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」のいずれにも当てはまらない場合

南海トラフ地震臨時情報発表の流れ



南海トラフ地震臨時情報が発表されたらどうする？



※1 家具の固定、非常用持ち出し品の準備、高い場所にある物の移動など

※2 但し、大規模地震が起きる可能性がなくなったわけではないことに留意

監修 香川大学創造工学部 教授 野々村敦子